

3 教保第 1 1 9 8 号
令和 4 年 3 月 1 8 日

各 教 育 事 務 所 長 ・ 支 所 長
各 県 立 学 校 長 殿

愛知県教育委員会事務局長

『『厳重警戒』での感染防止対策』に伴う県立学校の対応について

この度、「愛知県まん延防止等重点措置」が解除され、別紙 1 のとおり知事から「『厳重警戒』での感染防止対策」のメッセージが発出されました。

このことを受け、県教育委員会として、令和 4 年 3 月 22 日（火）から県立学校の対応を下記のとおりとしますので、適切に対応してください。

教育事務所・支所にあつては、管内市町村教育委員会に対し、参考としていただくよう周知してください。

記

1 対応

別紙 2 のとおり。

2 対応の要点

○教育活動について、「感染症対策を講じてもなお**感染のリスクが高い学習活動**」は、地域の感染状況に応じて、**慎重に再開を検討**する。

○部活動について、**対外的な練習試合、合同練習、部合宿の実施**は、実施周辺地域の感染状況に応じて、活動時間や活動場所を検討しながら、感染防止対策を講じた上で**慎重に判断**する。

担当 保健体育課振興・保健グループ（伊藤）
電話 052-954-6793（ダイヤルイン）

担当 保健体育課学校体育グループ（山本）
電話 052-954-6825（ダイヤルイン）

担当 高等学校教育課教科・定通指導グループ（中村）
電話 052-954-6787（ダイヤルイン）

担当 義務教育課教科指導・人権教育グループ（深津）
電話 052-954-6799（ダイヤルイン）

担当 特別支援教育課指導グループ（山田）
電話 052-954-6798（ダイヤルイン）

「**嚴重警戒**」での感染防止対策

第6波の終息に向け 県民・事業者の皆様へのメッセージ

愛知県では、1月21日から、まん延防止等重点措置により感染拡大の抑制に取り組んでまいりました。

これまでの取組により、新規陽性者数は減少傾向となり、病床使用率が減少するなど、医療提供体制への負荷が低下する見込みであります。

このような状況の中、昨日、国において、本県に対し、3月21日をもってまん延防止等重点措置を解除することが決定されました。

しかしながら、新規陽性者数は減少幅が大きくなってきたものの、入院患者数の減り方は少なく、今後、春休みや年度末に向け、人の移動が活発になる季節を迎えることなどから、引き続き、基本的な感染防止対策が求められます。

県民・事業者の皆様には、県をまたぐ移動の際は、感染リスクの高い行動は控えていただくとともに、歓送迎会や花見など春の行事では、大人数・長時間の飲食は避けていただくなど、「**嚴重警戒**」での感染防止対策の徹底をお願いします。

県としても、感染拡大抑制に不可欠であるワクチンの3回目接種について、市町村の集団接種・個別接種に加え、県の大規模集団接種、企業等の職域接種などにより、1人でも多くの方に、1日でも早く接種を受けていただけるよう、全力で取り組んでおりますので、皆様には積極的な接種の検討をお願いします。

オール愛知一丸となって、この第6波を克服し、安心な日常生活と活力ある社会経済活動を取り戻していくことができるよう、皆様一人ひとりのご理解とご協力をお願いします。

- 1 **実施区域** 愛知県全域
- 2 **実施期間** 3月22日（火）～
- 3 **要請事項** 別紙『**「嚴重警戒**」での感染防止対策』にご協力をお願いします。

2022年3月18日

愛知県知事 大村 秀章

「**嚴重警戒**」での**感染防止対策**

第6波の終息に向け 県民・事業者の皆様へのお願い

実施区域：愛知県全域

実施期間：2022年 3月22日(火)～

全般的な方針

- 国の基本的対処方針を踏まえ、基本的感染防止対策の徹底、テレワークの推進、イベント開催制限等の取組を推進します。

I. 県民の皆様へのお願い

① 外出の注意点

- 混雑した場所や感染リスクが高い場所は、避けて行動してください。

② 県をまたぐ移動の注意点

- 帰省や旅行等、県をまたぐ移動は、「三つの密」の回避を含め基本的な感染防止対策を徹底するとともに、移動先での感染リスクの高い行動は控えてください。

③ 高齢者等への感染拡大の防止

- 重症化しやすい高齢者、基礎疾患のある方々、妊婦の皆さんが感染しないよう、人と人との距離の確保やマスク着用（不織布マスクを推奨。以下同じ。）など、基本的な感染防止対策の徹底などの配慮をお願いします。
- これらの方々も、感染リスクの高い施設の利用を避け、いつも会う人と少人数で会う等、感染防止対策の徹底をお願いします。

④ 基本的な感染防止対策の徹底

- 「感染しない、感染させない」を徹底してください。
- 特に、若い世代の方々は、基本的な感染防止対策を徹底してください。
- 会食・飲食する際は、同一グループで同一テーブルに4人までを目安に（介助や介護を要する場合は除く）、黙食を基本とし、飲食する時だけマスクを外し、会話の際には「マスク会食」を徹底してください。また、「大声で騒ぐこと」は、飛まつ感染につながるため、やめていただくようお願いします。
- 「ニューあいちスタンダード認証店（以下「あいスタ認証店」という。）や「安全・安心宣言施設」のステッカー掲載店で、感染防止対策が徹底されている店を

利用してください。

- ワクチン接種を終えた方も含めて、日頃から、「三つの密」が発生する場所を避け、大人数や長時間におよぶ飲食など別図1「感染リスクが高まる5つの場面」では、マスクの着用、手指消毒等、基本的な感染防止対策を徹底してください。
- タクシーやバス・電車等の公共交通機関では、常にマスクを着用し、大声での会話は控えてください。
- 適切な温度・湿度等を保ちつつ、十分な換気を行ってください。
- 家庭内においても、室内を定期的に換気し、こまめに手洗いを行っていただくとともに、子供の感染防止策を徹底してください。
- 発熱等の症状が出たときは、まずは、かかりつけ医等の地域の医療機関や、保健所に設置された「受診・相談センター」等に電話相談の上、県が指定した「診療・検査医療機関」を受診してください。
- 無症状でも感染の不安がある場合は、PCR等検査を受けてください。
- 接触確認アプリCOCOAを、県民・事業者の皆様、オール愛知で活用し、検査の受診など保健所の早期サポートにつなげてください。

II. 事業者の皆様へのお願い

⑤ 飲食店等に対する協力要請

- 引き続き、これまでと同様の感染防止対策の徹底をお願いします。
 - (1) 従業員への検査勧奨
 - (2) 入場者の感染防止のための整理・誘導
 - (3) 発熱その他の症状のある者の入場の禁止
 - (4) 手指の消毒設備の設置
 - (5) 事業を行う場所の消毒
 - (6) 入場者に対するマスクの着用その他の感染の防止に関する措置の周知
 - (7) 正当な理由なくマスクの着用等の感染防止措置を講じない者の入場の禁止（すでに入場している者の退場を含む）
 - (8) 施設の換気
 - (9) アクリル板等の設置又は利用者の適切な距離の確保
 - (10) 同一グループの同一テーブルへの入店案内は4人までを目安(介助や介護を要する場合は除く)

※「あいスタ認証店」において、ワクチン・検査パッケージ制度の適用による人数制限の緩和は行わない。

⑥ 業種別ガイドラインの遵守等

- 飲食店では、二酸化炭素濃度測定器を使った店内の換気状態の確認や、会話の声が大きくなるようBGMの音量を最小限にするなど、別表1の対策をお願いします。
- 全ての施設で、感染防止対策を自己点検の上、業種別ガイドラインや県の感染防止対策リストの遵守の徹底を強くお願いします。
- 事業者は、「あいスタ認証店」や「安全・安心宣言施設」のステッカーを掲示し、利用者に施設の安全性と感染防止対策への協力を呼び掛けてください。

⑦ 生活・経済の安定確保に不可欠な業務の継続

- 「別添」の事業継続が求められる事業者及びこれらの業務を支援する事業者においては、「三つの密」を避けるために必要な対策を含め、十分な感染防止策を講じつつ、感染者や濃厚接触者が発生し、欠勤者が多く発生する場合においても、事業の特性を踏まえ、業務の継続をお願いします。

⑧ テレワークの推進等

- 事業者は、接触機会の低減に向け、休暇取得の促進やテレワーク、ローテーション勤務の推進をお願いします。また、テレワークの活用等による出勤者数削減の実施状況を自ら積極的に公表し、取組を推進するようお願いします。
- 時差出勤、週休や昼食時間の分散化など、通勤・在勤時の「三つの密」を防ぐ取組の徹底をお願いします。

⑨ 職場クラスターを防ぐ感染防止対策

- 職場・寮での手指消毒、マスク着用、職員同士の距離確保、換気の励行、複数人が触る箇所の消毒、発熱等の症状が見られる従業員の出勤自粛、テレビ会議の活用、感染リスクが高まる「5つの場面」を避ける行動などの感染防止対策を徹底してください。
- 特に、休憩室、更衣室、喫煙室等、職場での「居場所の切り替わり」に注意するよう周知してください。
- 従業員に、基本的な感染防止対策の徹底を呼び掛けていただくようお願いします。

⑩ 事業継続計画(BCP)の点検・策定

- 感染爆発に起因する従業員の療養等により、事業活動の低下が懸念されます。あらゆる事業所において、事業継続計画(BCP)を点検し、未策定の場合は早急に策定をお願いします。

Ⅲ. その他のお願い

⑪ イベントの開催制限等

ア. 事業者におけるイベントの開催制限

- 事業者に対する、法第24条第9項に基づくイベントの開催制限は、別表2の基準に制限するとともに、業種別ガイドラインに基づく感染防止対策の徹底をお願いします。
- あわせて、参加者に対するイベント前後の「三つの密」を回避するための方策の徹底をお願いします。

イ. 参加者へのお願い

- イベントに参加する場合は、人との距離確保、マスク着用、大声で会話や過度な飲酒を控えるなど、感染防止対策を徹底し、対策がとれない場合は、参加を自粛してください。また、イベント会場との直行・直帰をお願いします。

※特に、大規模なイベントを開催する際には、事業者は、人数上限やエリア内の行動管理など、適切な感染防止対策を徹底するとともに、参加者は、自覚をもって、感染防止対策を自ら徹底するようお願いします。

⑫ 3月・4月に行われる行事等での対策

- 卒業式、入学式、入社式等の行事については、感染防止を徹底するとともに、人と人との間隔を十分に確保する等、適切な開催方法を検討してください。特に、大学の卒業式・入学式など、より多くの人が集まる行事は、より慎重な対策の上で適切な開催の在り方を判断してください。
- 歓送迎会、新歓コンパ、謝恩会、花見、卒業パーティー、追い出しコンパ、仕事の打ち上げなどによる、大人数・長時間の飲食は避けてください。
- 卒業旅行や友人との旅行、春休みの旅行は、基本的な感染防止対策を徹底するとともに、移動先での感染リスクの高い行動は控えましょう。
- 花見、春祭りなど、多数の人が集まる「季節の行事」については、人と人の距離の確保・マスクの着用・手指衛生・大声での会話の自粛など「基本的な感染防止対策」の徹底をお願いします。

⑬ 学校等での対応

- 学校においては、健康観察の徹底（体調不良の際は登校させない）、手洗い・換気・マスク着用、オンライン学習の活用、食事時の会話禁止（会話は食事後にマスクを着けてから）等の感染防止対策を徹底して、教育活動の継続をお願いします。
- 特に、発熱等の症状がある学生等が登校や活動参加を控えるようお願いします。

- 「感染症対策を講じてもお感染のリスクが高い学習活動」(※)は、地域の感染状況に応じて、慎重に再開を検討するようお願いいたします。

※ (近距離で活動する)理科の実験や観察、美術の共同制作等、長時間対面形式となるグループワーク等及び一斉に大きな声で話す活動、合唱及び管楽器演奏、調理実習、密集する運動、組み合ったり接触したりする運動

- 臨時休業等で登校できない場合は、可能な限りオンラインによる学習支援をお願いいたします。
- 寮生活、クラブ・部活動など集団行動における感染防止対策の徹底をお願いします。
- 家庭においても、規則正しい生活習慣の徹底（体調不良の際は登校しない・させない）をお願いします。
- 修学旅行等の校外行事の実施については、旅行先の感染状況を確認し、感染防止対策を徹底した上で慎重に判断するようお願いいたします。
- 大学等においても適切な対応をお願いいたします。

⑭ 保育所、認定こども園、幼稚園等での対応

- 保育所等が果たす社会的機能を維持するため原則開所をお願いいたします。また、医療従事者等の社会機能維持者等の就労継続が可能となるよう、休園した保育所等の児童に対する代替保育を確保するなど、地域の保育機能を維持するようお願いします。
- 発熱等の症状がある児童の登園自粛を徹底するようお願いします。
- 「保育所における感染症対策ガイドライン」等を踏まえた対応を基本としつつ、感染リスクが高い活動を避けるとともに、児童をできるだけ少人数のグループに分割するなど、感染を広げない形での保育を行うようお願いします。
- 保護者が参加する行事の延期等を含めて大人数での行事を自粛するようお願いします。
- 発育状況等からマスクの着用が無理なく可能と判断される児童については、可能な範囲で、一時的に、マスク着用を奨めるようお願いします。ただし、2歳未満児のマスク着用は奨めず、低年齢児については特に慎重に対応するようお願いします。マスクを着用する場合には、息苦しくないか、嘔吐していないかなどの子どもの体調変化に十分注意するほか、本人の調子が悪い場合などは無理して着用させる必要はありません。さらに、一律に着用を求めたり、児童や保護者の意図に反して実質的に無理強いすることにならないよう、現場に対して留意点を丁寧に周知し、適切な運用をお願いします。
- 発熱等の症状がある職員の休暇取得の徹底、職員に対する早期のワクチンの

3回目接種を行うようお願いします。

- なお、放課後児童クラブ等においても同様の取扱をお願いします。

⑮ 高齢者施設等での対応

- 「高齢者を守る8つのポイント」を遵守し、感染防止対策の徹底をお願いします。さらに、集団感染を防ぐため、施設職員を対象とするスクリーニング検査の積極的な受検をお願いします。
- レクリエーション時のマスク着用、送迎時の窓開けや、発熱した従業員の休暇等、「介護現場における感染対策の手引き」に基づく対応を徹底してください。
- 面会者からの感染を防ぐため、感染が拡大している地域では、オンラインによる面会の実施も含めて対応を検討してください。通所施設において、導線の分離など、感染対策をさらに徹底してください。

IV. 県の取組

- 災害医療の専門家で構成する医療体制緊急確保チームを中心に、県内全ての医療機関と協力し、引き続き、検査体制及び医療提供体制の更なる強化と維持に全力をあげます。
- 体調が悪化した自宅療養者等が速やかに必要な医療が受けられる体制を確保します。
- 健康上の理由等によるワクチン未接種の方や感染不安を感じる無症状の方が無料でPCR等検査を身近で受けられるよう、登録検査所を増加させます。
- 新型コロナワクチンの3回目接種については、国、市町村、医療機関、医師会等関係団体、企業・大学等と緊密に連携し、希望する全ての対象の方に円滑に接種を進めます。実施にあたっては、本県独自の取組により、3回目接種の対象者全ての接種間隔を6か月に前倒すとともに、医療従事者や高齢者施設等の入所者、看護学生や医学部生、警察・消防職員、自衛隊員、保育士・幼稚園教諭等に対する接種券なしの接種を積極的に進め、3回目接種を加速します。
- また、6か所の大規模集団接種会場において接種を進め、3回目接種の加速化を図ります。
- 小児接種については、市町村での接種に加え、県が設ける大規模集団接種会場4会場においても、接種を実施しており、接種後の副反応への不安を解消すべく、副反応に関する相談体制を確保しています。お子様と保護者の方に安心して接種を受けていただけるよう、引き続き、チラシ、Web ページ等の広報媒体を用いて正しい情報の周知に努めていきます。
- 重症化リスクの高い高齢者施設等の入所者を守り、施設内感染を防ぐため、

県内全域で、高齢者施設等職員へのスクリーニング検査を実施します。

- 感染防止対策の継続により影響を受ける県民・事業者の皆様に対し、国の施策と連携し、きめ細かな支援に努めるとともに、相談体制として、「別表3」の相談窓口やコールセンターにより、様々な問合せや相談に対応します。
- 飲食店等の感染防止対策の向上を図るため、あいスタ認証制度の普及に取り組めます。**
- 県機関においても、テレワーク、ローテーション勤務、時差出勤など、人との接触機会を低減する取組を進めます。
- 感染防止対策の実施に際しては、国、医療機関、市町村等関係機関、団体はもとより、岐阜県・三重県と連携して取組を進めます。

別図1

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、感覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事と比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、屋カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



(出典) 新型コロナウイルス感染症対策分科会資料

別表1

緊急事態宣言解除後地域における当面の間の飲食業の在り方

I. 【店内換気】二酸化炭素濃度測定器を用いて店内を測定し、二酸化炭素濃度が一定水準（目安1,000ppm）を超えないように換気や収容人数を調整する。なお、二酸化炭素濃度が一定水準を超えた場合に自動的に換気が行われる技術を導入する方法もありうる。

II. 【間隔確保】①同一グループ内の人と人との間隔、及び、②他のグループとのテーブル間の距離、を一定以上（目安1～2m）に確保する。なお、距離の確保が困難な場合には、飛沫の飛散防止に有効な遮蔽板（アクリル板等）等を設置するなど工夫する。

III. 【大声】店内で会話の大きくなりすぎないようにBGMの音量を最小限にするなど工夫する。

IV. 【その他】①席の近くに消毒液を設置。②店舗入口等の掲示にて食事中以外のマスク着用及び体調不良者の入店お断りをお願い。③体調の悪い人がキャンセルできるような方針を業界団体で検討。

2021年2月25日新型コロナウイルス感染症対策分科会資料から抜粋

別表2 イベントの開催制限

| | 収容率 | 人数上限 | 営業時間短縮 |
|------------------------------------|-----------------------|--------------------------------------|--------|
| 「感染防止安全計画」を策定し、県がその内容を確認したイベント(注1) | 100%(注2) | 収容定員まで | なし |
| その他のイベント(注3) | 大声なし:100% 大声あり:50% | 5,000人 又は 収容定員50% のいずれか大きい方 | |

(注1)5,000人超かつ収容率50%超のイベントに適用。「感染防止安全計画」の詳細は、国からの通知に基づき運用。

(注2)感染防止安全計画策定イベントは、「大声なし」であることが必須。

(注3)収容率と人数上限でどちらか小さい方を限度(両方の条件を満たす必要)。

また、別に示すチェックリストにより、感染防止策への対応状況を確認し、そのチェックリストをイベント主催者等がWebページ等で公表し、イベント終了日から1年間保管すること。

※催物開催に当たっては、別紙「イベントの開催時の必要な感染防止策」に留意すること。

イベント開催等における必要な感染防止策

| 項 目 | 基本的な感染対策 |
|----------------------------|--|
| ①飛沫の抑制（マスク着用や大声を出さないこと）の徹底 | <p>□飛沫が発生するおそれのある行為を抑制するため、適切なマスク（品質の確かな、できれば不織布）の正しい着用や大声を出さないことを周知・徹底し、そうした行為をする者がいた場合には、個別に注意、退場処分等の措置を講じる</p> <p>*大声を「観客等が、⑦通常よりも大きな声量で、④反復・継続的に声を発すること」と定義し、これを積極的に推奨する又は必要な対策を施さないイベントは「大声あり」に該当することとする。</p> <p>*大声を伴う可能性のあるため収容率を50%とする場合でも、常に大声を出すことは飛沫防止の観点から望ましいものではないため、対策を徹底すること。</p> <p>*飛沫が発生するおそれのある行為には、大声での会話を誘発するような、大音量のBGMや応援なども含む。</p> <p>*適切なマスクの正しい着用については、厚生労働省HP「国民の皆さまへ（新型コロナウイルス感染症）」参照</p> |
| ②手洗、手指・施設消毒の徹底 | <p>□こまめな手洗や手指消毒の徹底を促す（会場出入口等へのアルコール等の手指消毒液の設置や場内アナウンス等の実施）</p> <p>□主催者側による施設内（出入口、トイレ、共用部等）の定期的かつこまめな消毒の実施</p> |
| ③換気の徹底 | <p>□法令を遵守した空調設備の設置による常時換気又はこまめな換気（1時間に2回以上・1回に5分以上）の徹底</p> <p>*室温が下らない範囲での常時窓開け可。</p> <p>*屋外開催は上記と同程度の換気効果と想定。</p> <p>*必要に応じて、湿度40%以上を目安に加湿も検討。</p> |
| ④来場者間の密集回避 | <p>□入退場時の密集を回避するための措置（入場ゲートの増設や時間差入退場等）の実施</p> <p>□休憩時間や待合場所での密集を回避するための人員配置や動線確保等の体制構築</p> <p>*入場口・トイレ・売店等の密集が回避できない場合はキャパシティに応じて収容人数を制限する等、最低限人と人とが触れ合わない程度の間隔を確保する。</p> <p>□大声を伴わない場合には、人と人とが触れ合わない間隔、大声を伴う可能性のあるイベントは、前後左右の座席との身体的距離の確保</p> <p>*「大声あり」の場合、座席間は1席（立席の場合できるだけ2m、最低1m）空けること。</p> |
| ⑤飲食の制限 | <p>□飲食時における感染防止策（飲食店に求められる感染防止策等を踏まえた十分な対策）の徹底</p> <p>□食事中以外のマスク着用の推奨</p> <p>□長時間マスクを外す飲食は、隣席への飛沫感染のリスクを高めるため、可能な限り、飲食専用エリア以外（例：観客席等）は自粛</p> <p>*発声がないことを前提に、飲食時以外のマスク着用担保や、マスクを外す時間を短くするため食事時間を短縮する等の対策ができる環境においてはこの限りではない。</p> <p>□自治体等の要請に従った飲食・酒類提供の可否判断（提供する場合には飲酒に伴う大声等を防ぐ対策を検討）</p> |
| ⑥出演者等の感染対策 | <p>□有症状者（発熱又は風邪等の症状を呈する者）は出演・練習を控えるなど日常からの出演者やスタッフ等の健康管理を徹底する</p> <p>*体調が悪いときは医療機関等に適切に相談。</p> <p>□練習時等、イベント開催前も含め、声を発出する出演者やスタッフ等の関係者間での感染リスクに対処する</p> <p>*練習時等であっても、適切なマスクの正しい着用、出演者やスタッフ等の関係者間の適切な距離確保、換気、必要に応じた検査等の対策が必要。</p> <p>□出演者やスタッフ等と観客がイベント前後・休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じる（誘導スタッフ等、必要な場合を除く）</p> |
| ⑦参加者の把握・管理等 | <p>□チケット購入時又は接触確認アプリ（COCOA）や各地域の通知サービス（BluetoothやQRコードを用いたもの等）を活用。</p> <p>*原則、参加者全員に対してアプリダウンロードまたは、氏名・連絡先等の把握を徹底。</p> <p>□入場時の検温、有症状（発熱又は風邪等の症状）等を理由に入場できなかった際の払戻し措置等により、有症状者の入場を確実に防止</p> <p>*チケット販売時に、有症状の場合は早めに連絡・キャンセルすることを周知すること。</p> <p>□時差入退場の実施や直行・直帰の呼びかけ等イベント前後の感染防止の注意喚起</p> |

※上記に加え、自治体からの要請や各業界が定める業種別ガイドライン（該当する業種において策定されている場合）を遵守すること。

2021年11月19日 国・事務連絡「基本的対処方針に基づくイベントの開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項等について」から抜粋

別表3 新型コロナウイルス感染症関連の主な相談窓口

① 新型コロナウイルス感染症に関する各種相談窓口

| 名称 | 電話番号 | 受付時間 | 備考(取扱内容・所管区域等) |
|---|---------------------------|-----------------------------|---|
| 愛知県・新型コロナウイルス感染症「県民相談総合窓口(コールセンター)」 | 052-954-7453 | 午前9時～午後5時 (土、日、祝日を含む毎日) | |
| 愛知県感染防止対策協力金専用(飲食店営業時間短縮要請枠・カラオケ設備利用自粛要請枠)コールセンター | 052-228-7310 | 午前9時～午後5時 (土、日、祝日を含む毎日) | 愛知県感染防止対策協力金(飲食店営業時間短縮要請枠・カラオケ設備利用自粛要請枠)に関する事 |
| 愛知県感染防止対策協力金専用(大規模施設等営業時間短縮要請枠)コールセンター | 0120-263-225 (フリーダイヤル) | 午前9時～午後5時 (土、日、祝日を含む毎日) | 愛知県感染防止対策協力金(大規模施設等営業時間短縮要請枠)に関する事 |
| 愛知県中小企業者等応援金専用コールセンター | 0120-100-476 (フリーダイヤル) | 午前9時～午後5時 (土、日、祝日を含む毎日) | 愛知県中小企業者等応援金に関する事 |
| あいスタ認証コールセンター | 052-977-3655 | 午前10時～午後5時 (土、日、祝日を含む毎日) | あいスタ認証の申請手続き、審査基準、ワクチン・検査パッケージ制度適用登録に関する事 |

② 新型コロナワクチンに関する電話相談窓口

| 名称 | 電話番号 | 受付時間 | 備考(取扱内容・所管区域等) |
|-----------------------|--------------------------|-------------------------|----------------|
| 厚生労働省新型コロナワクチンコールセンター | 0120-761770 (フリーダイヤル) | 午前9時～午後9時 (土日・祝日も実施) | |

③ 中小・小規模企業総合相談窓口

| 名称 | 電話番号 | 受付時間 | 備考(取扱内容・所管区域等) |
|------------------------|------------------|--------------------|--------------------------|
| 産業政策課 | 052-954-6330 | 平日 午前8時45分～午後5時30分 | 中小・小規模企業対策全体 |
| 中小企業金融課 | 052-954-6333 | | 中小・小規模企業金融支援策 |
| 産業人材育成課 | 052-954-6365 | | 中小・小規模企業人材支援策 |
| 産業人材育成支援センター | 052-954-6717 | | |
| 尾張県民事務所産業労働課 | 052-961-7211(代表) | | 中小・小規模企業対策全体 |
| 海部県民事務所産業労働課 | 0567-24-2111(代表) | | |
| 知多県民事務所産業労働課 | 0569-21-8111(代表) | | |
| 西三河県民事務所産業労働課 | 0564-23-1211(代表) | | |
| 豊田加茂産業労働・山村振興グループ | 0565-32-7498 | | |
| 東三河総局企画調整部産業労働課 | 0532-54-5111(代表) | | |
| 新城設楽振興事務所山村振興課産業労働グループ | 0536-23-2111(代表) | | |
| あいち産業科学技術総合センター | 0561-76-8301 | | 中小・小規模企業技術指導 |
| 産業技術センター | 0566-24-1841 | | 中小・小規模企業技術指導全般に関する事 |
| 常滑窯業試験場 | 0569-35-5151 | | |
| 三河窯業試験場 | 0566-41-0410 | | 中小・小規模企業技術指導のうち窯業に関する事 |
| 瀬戸窯業試験場 | 0561-21-2116 | | |
| 食品工業技術センター | 052-325-8091 | | 中小・小規模企業技術指導のうち食品工業に関する事 |
| 尾張繊維技術センター | 0586-45-7871 | | 中小・小規模企業技術指導のうち繊維工業に関する事 |
| 三河繊維技術センター | 0533-59-7333 | | |
| (公財)あいち産業振興機構 | 052-715-3071 | | |
| 愛知県信用保証協会 | | 各相談窓口の業務時間内 | 中小・小規模企業金融支援策 |
| 総合相談窓口 | 0120-454-754 | | |
| 西三河支店 | 0564-25-2430 | | |
| 東三河支店 | 0532-57-5611 | | |
| 愛知県中小企業団体中央会 | 052-485-6811 | | 中小・小規模企業対策全体 |
| 各商工会議所及び各商工会 | - | | 中小・小規模企業対策全体 |

④ 児童福祉施設及び障害者福祉サービス施設・事業所等に対する相談窓口

| 名称 | 電話番号 | 受付時間 | 備考(取扱内容・所管区域等) |
|-------------|---------------|------------------------|----------------|
| (公社)愛知県看護協会 | 090-1563-6688 | 平日 午前9時～午後5時(来所相談は要予約) | 2022年3月31日まで |

⑤ 学校に関する相談窓口

| 名称 | 電話番号 | 受付時間 | 備考(取扱内容・所管区域等) |
|---------------------|--------------|--------------------|-----------------|
| 義務教育課 教科指導・人権教育グループ | 052-954-6799 | 平日 午前8時45分～午後5時30分 | 小・中学校、義務教育学校関係 |
| 高等学校教育課 教科・定通指導グループ | 052-954-6787 | 平日 午前8時45分～午後5時30分 | 高等学校関係 |
| 特別支援教育課 指導グループ | 052-954-6798 | 平日 午前8時45分～午後5時30分 | 特別支援学校関係 |
| 保健体育課 振興・保健グループ | 052-954-6793 | 平日 午前8時45分～午後5時30分 | 学校保健、運動部活動、給食関係 |

⑥ 感染が不安な方や健康に関する相談窓口

| 名称 | 電話番号 | 受付時間 | 備考(取扱内容・所管区域等) |
|---------------------------|---|------|----------------|
| 診療・検査医療機関(公表の了承の得られた医療機関) | https://www.pref.aichi.jp/site/covid19-aichi/soudan.html#1 | | |

受診・相談センター

| 名称 | 電話番号 | 受付時間 | 備考(取扱内容・所管区域等) |
|---------|--------------|-----------------|-----------------------------|
| 瀬戸保健所 | 0561-21-1699 | 平日 午前9時～午後5時30分 | 瀬戸市、尾張旭市、豊明市、日進市、東郷町、長久手市 |
| 春日井保健所 | 0568-37-3859 | | 春日井市、小牧市 |
| 江南保健所 | 0587-55-1699 | | 犬山市、江南市、岩倉市、大口町、扶桑町 |
| 清須保健所 | 052-400-2499 | | 稲沢市、清須市、北名古屋、豊山町 |
| 津島保健所 | 0567-24-6999 | | 津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村 |
| 半田保健所 | 0569-21-3342 | | 半田市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町 |
| 知多保健所 | 0562-32-1699 | | 常滑市、東海市、大府市、知多市 |
| 衣浦東部保健所 | 0566-22-1699 | | 碧南市、刈谷市、安城市、知立市、高浜市、みよし市 |
| 西尾保健所 | 0563-54-1299 | | 西尾市、幸田町 |
| 新城保健所 | 0536-23-5999 | | 新城市、設楽町、東栄町、豊根村 |
| 豊川保健所 | 0533-86-3177 | 豊川市、蒲郡市、田原市 | |

夜間・休日の受診相談窓口

| 名称 | 電話番号 | 受付時間 | 備考(取扱内容・所管区域等) |
|-----------|--------------|-------------------------------------|----------------|
| 夜間・休日相談窓口 | 052-526-5887 | 平日夜間 午後5時30分～翌午前9時 土、日、祝日 24時間体制 | |

政令市・中核市にお住まいの方の相談窓口

| 名称 | 電話番号 | 受付時間 | 備考(取扱内容・所管区域等) |
|---------|---------------|---|----------------|
| 名古屋市保健所 | 050-3614-0741 | 毎日 24時間体制 | 名古屋市 |
| 豊橋市保健所 | 0532-39-9119 | 毎日 24時間体制 | 豊橋市 |
| 岡崎市保健所 | 0564-23-5074 | 平日 午前9時～午後5時 | 岡崎市 |
| | 052-856-0318 | 平日夜間 午後5時～翌午前9時 (コールセンター) 土・日・祝日 24時間体制 | |
| 一宮市保健所 | 0586-52-3850 | 昼間(午前8時45分～午後5時) | 一宮市 |
| | 052-856-0315 | 夜間(午後5時～翌午前8時45分) | |
| 豊田市保健所 | 0565-34-6586 | 平日 午前9時～午後5時 | 豊田市 |
| | 050-3615-6946 | 平日夜間 午後5時～翌午前9時 (コールセンター) 土・日・祝日 24時間体制 | |

かかりつけの診療所・病院が開いていないとき

| 名称 | 電話番号 | 受付時間 | 備考(取扱内容・所管区域等) |
|---------------|--------------|-----------|----------------|
| 愛知県救急医療情報センター | 052-263-1133 | 毎日、24時間体制 | 名古屋地域 |
| | 0532-63-1133 | | 豊橋地域 |
| | 0564-21-1133 | | 岡崎地域 |
| | 0586-72-1133 | | 一宮地域 |
| | 0561-82-1133 | | 瀬戸地域 |
| | 0569-28-1133 | | 半田地域 |
| | 0568-81-1133 | | 春日井地域 |
| | 0567-26-1133 | | 津島地域 |
| | 0566-36-1133 | | 刈谷地域 |
| | 0565-34-1133 | | 豊田地域 |
| | 0563-54-1133 | | 西尾地域 |
| | 0562-33-1133 | | 尾張横須賀地域 |
| | 0536-22-1133 | | 新城地域 |
| | 0536-62-1133 | | 設楽地域 |
| | 0531-23-1133 | | 田原地域 |

一般相談窓口

| 名称 | 電話番号 | 受付時間 | 備考(取扱内容・所管区域等) |
|---------|--------------|--------------|-----------------------------|
| 瀬戸保健所 | 0561-82-2196 | 平日 午前9時～午後5時 | 瀬戸市、尾張旭市、豊明市、日進市、東郷町、長久手市 |
| 春日井保健所 | 0568-31-2188 | | 春日井市、小牧市 |
| 江南保健所 | 0587-56-2157 | | 犬山市、江南市、岩倉市、大口町、扶桑町 |
| 清須保健所 | 052-401-2100 | | 稲沢市、清須市、北名古屋、豊山町 |
| 津島保健所 | 0567-26-4137 | | 津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村 |
| 半田保健所 | 0569-21-3341 | | 半田市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町 |
| 知多保健所 | 0562-32-6211 | | 常滑市、東海市、大府市、知多市 |
| 衣浦東部保健所 | 0566-21-4797 | | 碧南市、刈谷市、安城市、知立市、高浜市、みよし市 |
| 西尾保健所 | 0563-56-5241 | | 西尾市、幸田町 |
| 新城保健所 | 0536-22-2203 | | 新城市、設楽町、東栄町、豊根村 |
| 豊川保健所 | 0533-86-3188 | 豊川市、蒲郡市、田原市 | |

政令市・中核市にお住まいの方の一般相談窓口

| | | | |
|----------|--------------|--------------------|--|
| 千種保健センター | 052-753-1982 | 平日 午前8時45分～午後5時15分 | |
| 東保健センター | 052-934-1218 | | |
| 北保健センター | 052-917-6552 | | |
| 西保健センター | 052-523-4618 | | |
| 中村保健センター | 052-481-2295 | | |
| 中保健センター | 052-265-2262 | | |
| 昭和保健センター | 052-735-3964 | | |
| 瑞穂保健センター | 052-837-3264 | | |
| 熱田保健センター | 052-683-9683 | | |
| 中川保健センター | 052-363-4463 | | |
| 港保健センター | 052-651-6537 | | |
| 南保健センター | 052-614-2814 | | |
| 守山保健センター | 052-796-4623 | | |
| 緑保健センター | 052-891-3623 | | |
| 名東保健センター | 052-778-3114 | | |
| 天白保健センター | 052-807-3917 | | |
| 豊橋市保健所 | 0532-39-9119 | 毎日 午前9時～午後5時 | |
| 岡崎市保健所 | 0564-23-5074 | 毎日 午前9時～午後5時 | |
| 一宮市保健所 | 0586-52-3850 | 平日 午前8時30分～午後5時15分 | |
| 豊田市保健所 | 0565-34-6052 | 平日 午前9時～午後5時 | |

看護所による一般相談窓口(健康相談)

| | | | |
|--------------|--------------|-------------------------------|--|
| 感染症対策局感染症対策課 | 052-954-6272 | 午前9時～午後5時30分 (土・日・祝日を含む毎日) | |
|--------------|--------------|-------------------------------|--|

⑦ 相談窓口が分からない方への総合案内

| 名称 | 電話番号 | 受付時間 | 備考(取扱内容等) |
|----------------|--------------|-----------------|-----------|
| 愛知県県民相談・情報センター | 052-962-5100 | 平日 午前9時～午後5時15分 | |
| 西三河県民相談室 | 0564-27-0800 | 平日 午前9時～午後5時15分 | |
| 東三河県民相談室 | 0532-52-7337 | 平日 午前9時～午後5時15分 | |

別 添

事業の継続が求められる事業者

以下、事業者等については、「三つの密」を避けるための取組を講じていただきつつ、事業の継続を求める。

1. 医療体制の維持

- ・新型コロナウイルス感染症の治療はもちろん、その他の重要疾患への対応もあるため、全ての医療関係者の事業継続を要請する。
- ・医療関係者には、病院・薬局等のほか、医薬品・医療機器の輸入・製造・販売、献血を実施する採血業、入院者への食事提供等、患者の治療に必要な全ての物資・サービスに関わる製造業、サービス業を含む。

2. 支援が必要な方々の保護の継続

- ・高齢者、障害者等特に支援が必要な方々の居住や支援に関する全ての関係者(生活支援関係事業者)の事業継続を要請する。
- ・生活支援関係事業者には、介護老人福祉施設、障害者支援施設等の運営関係者のほか、施設入所者への食事提供など、高齢者、障害者等が生活する上で必要な物資・サービスに関わる全ての製造業、サービス業を含む。

3. 国民の安定的な生活の確保

- ・自宅等で過ごす国民が、必要最低限の生活を送るために不可欠なサービスを提供する関係事業者の事業継続を要請する。

- ① インフラ運営関係(電力、ガス、石油・石油化学・LPガス、上下水道、通信・データセンター等)
- ② 飲食料品供給関係(農業・林業・漁業、飲食料品の輸入・製造・加工・流通・ネット通販等)
- ③ 生活必需物資供給関係(家庭用品の輸入・製造・加工・流通・ネット通販等)
- ④ 宅配・テイクアウト、生活必需物資の小売関係(百貨店・スーパー、コンビニ、ドラッグストア、ホームセンター等)
- ⑤ 家庭用品のメンテナンス関係(配管工・電気技師等)
- ⑥ 生活必需サービス(ホテル・宿泊、銭湯、理美容、ランドリー、獣医等)
- ⑦ ごみ処理関係(廃棄物収集・運搬、処分等)
- ⑧ 冠婚葬祭業関係(火葬の実施や遺体の死後処置に係る事業者等)
- ⑨ メディア(テレビ、ラジオ、新聞、ネット関係者等)
- ⑩ 個人向けサービス(ネット配信、遠隔教育、ネット環境維持に係る設備・サービス、自家用車等の整備等)

4. 社会の安定の維持

・社会の安定の維持の観点から、企業の活動を維持するために不可欠なサービスを提供する関係事業者の最低限の事業継続を要請する。

- ① 金融サービス(銀行、信金・信組、証券、保険、クレジットカードその他決済サービス等)
- ② 物流・運送サービス(鉄道、バス・タクシー・トラック、海運・港湾管理、航空・空港管理、郵便等)
- ③ 国防に必要な製造業・サービス業の維持(航空機、潜水艦等)
- ④ 企業活動・治安の維持に必要なサービス(ビルメンテナンス、セキュリティ関係等)
- ⑤ 安全安心に必要な社会基盤(河川や道路等の公物管理、公共工事、廃棄物処理、個別法に基づく危険物管理等)
- ⑥ 行政サービス等(警察、消防、その他行政サービス)
- ⑦ 育児サービス(保育所等の児童福祉施設、放課後児童クラブ等)

5. その他

・医療、製造業のうち、設備の特性上、生産停止が困難なもの(高炉や半導体工場等)、医療・支援が必要な人の保護・社会基盤の維持等に不可欠なもの(サプライチェーン上の重要物を含む。)を製造しているものについては、感染防止に配慮しつつ、継続する。また、医療、国民生活・国民経済維持の業務を支援する事業者等にも、事業継続を要請する。

・学校等については、児童生徒等や学生の学びの継続の観点等から、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」等を踏まえ、事業継続を要請する。

「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針 令和3年11月19日(令和4年1月25日変更)」から抜粋

『『嚴重警戒』での感染防止対策』に伴う県立学校の対応

(令和4年2月8日付けで通知した「愛知県まん延防止等重点措置」に伴う県立学校の対応の変更)及び令和4年3月4日付けで通知した「愛知県まん延防止等重点措置」の再延長に伴う県立学校の対応」との比較は、参考の対照表を参照)

1 学校運営の基本方針

「愛知県まん延防止等重点措置」の解除後も、引き続き警戒を緩めず、感染防止対策を徹底しながら学校教育活動を継続していく。

各学校の感染状況に応じて臨時休業の実施を迅速かつ適切に判断する。

2 感染防止対策の徹底

新型コロナウイルスに「感染しない・させない」ためには、児童生徒等一人一人が自覚を持って感染拡大防止に取り組む必要がある。感染性・伝播性が高いとされるオミクロン株に対応した感染防止対策を、ワクチン接種を終えた者も含めて徹底するよう、指導を行う。

(1) 登下校、放課後及び休日

ア 同居家族等も含めて毎日の健康観察を実施し、児童生徒等に発熱や倦怠感、喉の違和感などの風邪症状(※)が見られる場合、登校させない。

※ただし、軽微な症状がある場合の登校は、児童生徒等の健やかな学びを保障する観点等を踏まえつつ、地域の感染状況や花粉症を始めとする持病の有無など、個別の状況に応じて適切に判断する。

イ 同居家族等に同様の症状が見られる場合も、地域の感染状況などに応じて、登校を控えるよう保護者等に働きかける。

ウ 放課後は、寄り道をせずまっすぐ帰宅するよう指導する。放課後や休日の学校外における個人の行動においても、感染防止対策について自ら留意するよう児童生徒に指導する。

エ 登下校中も含め、校内では、原則マスクを着用するよう指導する(不織布マスクを推奨)。

ただし、マスクの着脱については、熱中症等への対策を優先させること、着用しない場合は人との身体的距離を十分に確保することを併せて指導する。

(2) 校内における感染防止対策

ア 昼食等の食事は、自席で食べるなど対面にならないようにし、会話をしないよう特に指導を徹底する。また、食事後は速やかにマスクを着用するよう指導する。

イ 「3密」と「大声」の回避、こまめな手洗、咳エチケットを徹底するよう指導する。

ウ 教室等の常時換気を実施する。なお、熱中症や寒さなどによる健康被害が生じないよう、調節可能な服装を認めるなど、柔軟な対応をする。

(3) 教職員の感染防止対策

ア 教職員も常日頃から上記感染防止対策を徹底する。

イ 会食や外出、都道府県間の移動等については、国や県が示す指針を遵守する。

ウ 教職員のワクチン接種について、正しい情報を提供しながら推奨する。

(4) 新型コロナワクチンについて

ワクチン接種に関わる個人情報、その管理を適切に行うとともに、ワクチン接種を受けていない児童生徒及び教職員が接種の強制や差別的な扱い等を受けることがないように十分に配慮する。

3 教育活動上の対応

(1) 慎重に再開を検討する活動

「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」は、地域の感染状況に応じて、慎重に再開を検討する。

- ① 理科における「児童生徒同士が近距離で活動する実験や観察」
- ② 図画工作、美術、工芸における「児童生徒同士が近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動」
- ③ 各教科等に共通する活動として「児童生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等」及び「近距離で一斉に大きな声で話す活動」
- ④ 音楽における「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」
- ⑤ 家庭、技術・家庭における「児童生徒同士が近距離で活動する調理実習」
- ⑥ 体育、保健体育における「児童生徒が密集する運動」や「近距離で組み合ったり接触したりする運動」

(2) 修学旅行等の校外行事

修学旅行等の校外行事の実施については、行き先の感染状況を確認し、必要に応じて目的地や内容を見直すなど感染防止対策を徹底した上で慎重に判断する。

(3) 学習活動

ア 教室等においては、児童生徒の間隔を、1メートルを目安に学級内で最大限確保する。

イ 体育の授業におけるマスクの着用は必要ないが、運動を行っていないときは、可能な限りマスクを着用する。ただし、マスクの着脱については、熱中症等への対策を優先し、着用しない場合は人との身体的距離を十分に確保する。

ウ 保護者から感染が不安で休ませたいと相談のあった児童生徒については、生活圏において感染経路が不明な患者が急激に増えている地域で、同居家族に高齢者や基礎疾患がある者がいるなどの事情があつて、他に手段がない場合など、合理的な理由があると校長が判断する場合には、指導要録上「出席停止・忌引等の日数」として記録し、欠席とはしないなどの柔軟な取扱いも可能である。その判断に当たっては、高齢者や基礎疾患のある方がいるなどの家庭・家族の状況、地域の医療体制のひっ迫の程度等を踏まえることが必要と考えられる。

エ 臨時休業等によりやむを得ず学校に登校できない児童生徒に対しては、学校に配備したタブレット端末や、民間の学習支援サービス（スタディサプリ、ロイロノート、チームズ等）を活用し、可能な限りオンラインによる学習支援を行う。

(4) 部活動

- ア 対外的な練習試合、合同練習及び部合宿の実施は、実施周辺地域の感染状況に応じて、活動時間や活動場所を検討しながら、感染防止対策を講じた上で慎重に判断する。
- イ 公式戦への参加は周辺地域の感染状況に応じて、慎重に検討する。
- ウ 児童生徒が密集する活動、近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い活動、向かい合って発声する活動及び室内で近距離で行う発声や演奏を伴う活動については、地域の感染状況に応じて、慎重に再開を検討する。
- エ 活動の開始時と終了時には、児童生徒の健康状態の把握や感染防止対策指導を行った上で実施する。なお、教員が常時立ち会わないことも可とする。
- オ 運動を行っていないときは、原則マスクを着用する。ただし、マスクの着脱については、熱中症等への対策を優先し、着用しない場合は人との身体的距離を十分に確保する。
- カ 活動の際には、部活動前後での集団での飲食や、部室等の共有エリアの一斉利用を控えるなど、付随する場面での感染防止対策も徹底する。

(5) 寮や寄宿舎における感染防止対策の徹底

引き続き、寮や寄宿舎の集団生活における感染防止対策を徹底する。

4 保護者との連携

学校内で感染拡大を防ぐためには、ウイルスを持ち込まないことが重要であることから、同居家族等も含めた健康観察、また、「『**『嚴重警戒』**での感染防止対策」に基づき各家庭においても感染予防に努めていただくよう、保護者等に依頼する。

「『**『厳重警戒』での感染防止対策**』 変更以前の対応との対照表

参 考

(下線部は変更箇所)

| <p>「『『厳重警戒』での感染防止対策』に伴う県立学校の対応</p> <p>(R4. 3. 18 通知)</p> | <p>「『愛知県まん延防止等重点措置』の再延長に伴う県立学校の対応</p> <p>(R4. 3. 4 通知)</p> | <p>「『愛知県まん延防止等重点措置』に伴う県立学校の対応 (令和4年2月8日変更)</p> <p>(R4. 2. 8 通知)</p> |
|--|--|---|
| <p>1 学校運営の基本方針</p> <p>「<u>『愛知県まん延防止等重点措置』の解除後も</u>、引き続き警戒を緩めず、<u>感染防止対策を徹底しながら学校教育活動を継続していく。</u></p> <p>各学校の感染状況に応じて臨時休業の実施を迅速かつ適切に判断する。</p> <p>2 感染防止対策の徹底</p> <p>新型コロナウイルスに「<u>感染しない・させない</u>」ためには、児童生徒一人一人が自覚を持って感染拡大防止に取り組む必要がある。感染性・伝播性が高いとされるオミクロン株に対応した感染防止対策を、ワクチン接種を終えた者も含めて徹底するよう、指導を行う。</p> <p>(1) 登下校、放課後及び休日</p> <p>ア 同居家族等も含めて毎日の健康観察を実施し、児童生徒に発熱や倦怠感、喉の違和感などの風邪症状<u>(※)</u>が見られる場合、登校させない。</p> <p>※ただし、軽微な症状がある場合の登校は、</p> | <p>1 学校運営の基本方針</p> <p>「<u>『愛知県まん延防止等重点措置』が再延長されることを踏まえ</u>、引き続き、<u>感染防止対策を徹底しながら学校教育活動を継続していく。</u></p> <p>各学校の感染状況に応じて臨時休業の実施を迅速かつ適切に判断する。</p> <p>2 感染防止対策の徹底</p> <p>新型コロナウイルスに「<u>感染しない・させない</u>」ためには、児童生徒一人一人が自覚を持って感染拡大防止に取り組む必要がある。感染性・伝播性が高いとされるオミクロン株に対応した感染防止対策を、ワクチン接種を終えた者も含めて徹底するよう、指導を行う。</p> <p>(1) 登下校、放課後及び休日</p> <p>ア 同居家族等も含めて毎日の健康観察を実施し、児童生徒に発熱や倦怠感、喉の違和感などの風邪症状が見られる場合、登校させない。</p> | <p>1 学校運営の基本方針</p> <p>感染の急速な拡大が続いていることを踏まえ、警戒度を最大にし、<u>感染防止対策を更に徹底した上で学校教育活動を継続していく。</u></p> <p>各学校の感染状況に応じて臨時休業の実施を迅速かつ適切に判断する。</p> <p>2 感染防止対策の徹底</p> <p>新型コロナウイルスに「<u>感染しない・させない</u>」ためには、児童生徒一人一人が自覚を持って感染拡大防止に取り組む必要がある。感染性・伝播性が高いとされるオミクロン株による感染が急増していることを踏まえ、引き続き、基本的な感染防止対策を、ワクチン接種を終えた者も含めて徹底するよう、指導を行う。</p> <p>(1) 登下校、放課後及び休日</p> <p>ア 同居家族等も含めて毎日の健康観察を実施し、児童生徒に発熱や倦怠感、喉の違和感などの風邪症状が見られる場合、登校させない。</p> |

児童生徒等の健やかな学びを保障する観点等を踏まえつつ、地域の感染状況や花粉症を始めとする持病の有無など、個別の状況に応じて適切に判断する。

イ 同居家族等に同様の症状が見られる場合も、地域の感染状況などに応じて、登校を控えるよう保護者等に働きかける。

ウ 放課後は、寄り道をせずまっすぐ帰宅するよう指導する。放課後や休日の学校外における個人の行動においても、感染防止対策について自ら留意するよう児童生徒に指導する。

エ 登下校中も含め、校内では、原則マスクを着用するよう指導する（不織布マスクを推奨）。

ただし、マスクの着脱については、熱中症等への対策を優先させること、着用しない場合は人との身体的距離を十分に確保することを併せて指導する。

イ 感染が拡大している地域については、同居家族等に同様の症状が見られる場合も登校を控えるよう保護者等に働きかける。

ウ 児童生徒の同居家族等が濃厚接触者に特定された場合（※）、当該家族が無症状で3日間経過又は検査で陰性が判明するまでは、児童生徒の登校を控えるよう保護者等に働きかける。

※感染者、職場、学校等から連絡を受け、濃厚接触の疑いがあるとして所定の期間自宅待機することとなった場合を含む。

エ 放課後は、寄り道をせずまっすぐ帰宅するよう指導する。放課後や休日の学校外における個人の行動においても、感染防止対策について自ら留意するよう児童生徒に指導する。

オ 登下校中も含め、校内では、原則マスクを着用するよう指導する（不織布マスクを推奨）。

ただし、マスクの着脱については、熱中症等への対策を優先させること、着用しない場合は人との身体的距離を十分に確保することを併せて指導する。

イ 感染者が急増している地域については、同居家族等に同様の症状が見られる場合も登校を控えるよう保護者等に働きかける。

ウ 児童生徒の同居家族等が濃厚接触者に特定された場合（※）、当該家族が無症状で3日間経過又は検査で陰性が判明するまでは、児童生徒の登校を控えるよう保護者等に働きかける。

※感染者、職場、学校等から連絡を受け、濃厚接触の疑いがあるとして所定の期間自宅待機することとなった場合を含む。

エ 放課後は、寄り道をせずまっすぐ帰宅するよう指導する。放課後や休日の学校外における個人の行動においても、感染防止対策について自ら留意するよう児童生徒に指導する。

オ 登下校中も含め、校内では、原則マスクを着用するよう指導する（不織布マスクを推奨）。

ただし、マスクの着脱については、熱中症等への対策を優先させること、着用しない場合は人との身体的距離を十分に確保することを併せて指導する。

(2) 校内における感染防止対策

ア 昼食等の食事は、自席で食べるなど対面にならないようにし、会話をしないよう特に指導を徹底する。また、食事後は速やかにマスクを着用するよう指導する。

イ 「3密」と「大声」の回避、こまめな手洗、咳エチケットを徹底するよう指導する。

ウ 教室等の常時換気を実施する。なお、熱中症や寒さなどによる健康被害が生じないように、調節可能な服装を認めるなど、柔軟な対応をする。

(3) 教職員の感染防止対策

ア 教職員も常日頃から上記感染防止対策を徹底する。

イ 会食や外出、都道府県間の移動等については、国や県が示す指針を遵守する。

ウ 教職員のワクチン接種について、正しい情報を提供しながら推奨する。

(4) 新型コロナワクチンについて

ワクチン接種に関わる個人情報、その管理を適切に行うとともに、ワクチン接種を受

(2) 時差登校、分散登校

公共交通機関を利用する児童生徒が多い学校は、地域の感染状況に応じて、公共交通機関が混雑する時間帯を避けられるよう時差登校の実施を検討する。また、学校の実情に応じて、分散登校を検討する。

(3) 校内における感染防止対策

ア 昼食等の食事は、自席で食べるなど対面にならないようにし、会話をしないよう特に指導を徹底する。また、食事後は速やかにマスクを着用するよう指導する。

イ 「3密」と「大声」の回避、こまめな手洗、咳エチケットを徹底するよう指導する。

ウ 教室等の常時換気を実施する。なお、熱中症や寒さなどによる健康被害が生じないように、調節可能な服装を認めるなど、柔軟な対応をする。

(4) 教職員の感染防止対策

ア 教職員も常日頃から上記感染防止対策を徹底する。

イ 会食や外出、都道府県間の移動等については、国や県が示す指針を遵守する。

ウ 教職員のワクチン接種について、正しい情報を提供しながら推奨する。

(5) 新型コロナワクチンについて

ワクチン接種に関わる個人情報、その管理を適切に行うとともに、ワクチン接種を受

(2) 時差登校、分散登校

公共交通機関を利用する児童生徒が多い学校は、地域の感染状況に応じて、公共交通機関が混雑する時間帯を避けられるよう時差登校の実施を検討する。また、学校の実情に応じて分散登校を検討する。

(3) 校内における感染防止対策

ア 昼食等の食事は、自席で食べるなど対面にならないようにし、会話をしないよう特に指導を徹底する。また、食事後は速やかにマスクを着用するよう指導する。

イ 「3密」と「大声」の回避、こまめな手洗、咳エチケットを徹底するよう指導する。

ウ 教室等の常時換気を実施する。なお、熱中症や寒さなどによる健康被害が生じないように、調節可能な服装を認めるなど、柔軟な対応をする。

(4) 教職員の感染防止対策

ア 教職員も常日頃から上記感染防止対策を徹底する。

イ 会食や外出、都道府県間の移動等については、国や県が示す指針を遵守する。

ウ 教職員のワクチン接種について、正しい情報を提供しながら推奨する。

(5) 新型コロナワクチンについて

ワクチン接種に関わる個人情報は令和3年6月18日付け3教高第480号通知に基づき

けていない児童生徒及び教職員が接種の強制や差別的な扱い等を受けることがないように十分に配慮する。

3 教育活動上の対応

(1) 慎重に再開を検討する活動

「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」は、地域の感染状況に応じて、慎重に再開を検討する。

- ① 理科における「児童生徒同士が近距離で活動する実験や観察」
- ② 図画工作、美術、工芸における「児童生徒同士が近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動」
- ③ 各教科等に共通する活動として「児童生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等」及び「近距離で一斉に大きな声で話す活動」
- ④ 音楽における「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」
- ⑤ 家庭、技術・家庭における「児童生徒同士が近距離で活動する調理実習」
- ⑥ 体育、保健体育における「児童生徒が密集する運動」や「近距離で組み合ったり接触したりする運動」

(2) 修学旅行等の校外行事

修学旅行等の校外行事の実施については、

けていない児童生徒及び教職員が接種の強制や差別的な扱い等を受けることがないように十分に配慮する。

3 教育活動上の対応

(1) 実施を慎重に検討する活動

「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」の実施は、地域の感染状況に応じて、慎重に検討する。

- ① 理科における「児童生徒同士が近距離で活動する実験や観察」
- ② 図画工作、美術、工芸における「児童生徒同士が近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動」
- ③ 各教科等に共通する活動として「児童生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等」及び「近距離で一斉に大きな声で話す活動」
- ④ 音楽における「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」
- ⑤ 家庭、技術・家庭における「児童生徒同士が近距離で活動する調理実習」
- ⑥ 体育、保健体育における「児童生徒が密集する運動」や「近距離で組み合ったり接触したりする運動」

(2) 修学旅行等の校外行事

修学旅行等の校外行事の実施については、

慎重に取り扱い、その管理を適切に行う。

3 教育活動上の対応

(1) 中止とする活動

「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」は、行わない。

- ① 理科における「児童生徒同士が近距離で活動する実験や観察」
- ② 図画工作、美術、工芸における「児童生徒同士が近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動」
- ③ 各教科等に共通する活動として「児童生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等」及び「近距離で一斉に大きな声で話す活動」
- ④ 音楽における「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」
- ⑤ 家庭、技術・家庭における「児童生徒同士が近距離で活動する調理実習」
- ⑥ 体育、保健体育における「児童生徒が密集する運動」や「近距離で組み合ったり接触したりする運動」

(2) 修学旅行等の校外行事

修学旅行等の校外行事の実施については、

行き先の感染状況を確認し、必要に応じて目的地や内容を見直すなど感染防止対策を徹底した上で慎重に判断する。

(3) 学習活動

ア 教室等においては、児童生徒の間隔を、1メートルを目安に学級内で最大限確保する。

イ 体育の授業におけるマスクの着用は必要ないが、運動を行っていないときは、可能な限りマスクを着用する。ただし、マスクの着脱については、熱中症等への対策を優先し、着用しない場合は人との身体的距離を十分に確保する。

行き先の感染状況を確認し、必要に応じて目的地や内容を見直すなど感染防止対策を徹底した上で慎重に判断する。

(3) 学習活動

ア 教室等においては、児童生徒の間隔を、1メートルを目安に学級内で最大限確保する。

イ 体育の授業におけるマスクの着用は必要ないが、運動を行っていないときは、可能な限りマスクを着用する。ただし、マスクの着脱については、熱中症等への対策を優先し、着用しない場合は人との身体的距離を十分に確保する。

行き先の感染状況を確認し、必要に応じて目的地や内容を見直すなど感染防止対策を徹底した上で慎重に判断する。

(3) 学習活動

ア 身体的距離の確保を優先し、教室等においては、児童生徒の間隔を可能な限り2メートル（最低1メートル）確保する。

イ 施設の制約により1メートルの距離が確保できないときは、マスク着用の徹底や十分な換気を行う。

ウ ペアワーク等は必要最小限とし、行う場合は、次に留意して実施する。

- ・ペア等を組む相手は固定する。
- ・近距離で、対面にならない形で実施し、極力短時間に留める。
- ・マスクを着用し、必要以上に大きな声を発しないよう指導する。

エ 体育については、集団で行う活動は避け、なるべく個人で行う活動とする。2～3人程度の特定の少人数での活動を行う場合は、十分な距離を空けて行う。

体育の授業におけるマスクの着用は必要ないが、運動を行っていないときは、可能な限りマスクを着用する。ただし、マスクの着脱については、熱中症等への対策を優先し、着用しない場合は人との身体的距離を十分に確保する。

ウ 保護者から感染が不安で休ませたいと相談のあった児童生徒については、生活圏において感染経路が不明な患者が急激に増えている地域で、同居家族に高齢者や基礎疾患がある者がいるなどの事情があつて、他に手段がない場合など、合理的な理由があると校長が判断する場合には、指導要録上「出席停止・忌引等の日数」として記録し、欠席とはしないなどの柔軟な取扱いも可能である。その判断に当たっては、高齢者や基礎疾患のある方がいるなどの家庭・家族の状況、地域の医療体制のひっ迫の程度等を踏まえることが必要と考えられる。

エ 臨時休業等によりやむを得ず学校に登校できない児童生徒に対しては、学校に配備したタブレット端末や、民間の学習支援サービス（スタディサプリ、ロイロノート、チームズ等）を活用し、可能な限りオンラインによる学習支援を行う。

(4) 部活動

ウ 保護者から感染が不安で休ませたいと相談のあった児童生徒については、生活圏において感染経路が不明な患者が急激に増えている地域で、同居家族に高齢者や基礎疾患がある者がいるなどの事情があつて、他に手段がない場合など、合理的な理由があると校長が判断する場合には、指導要録上「出席停止・忌引等の日数」として記録し、欠席とはしないなどの柔軟な取扱いも可能である。その判断に当たっては、高齢者や基礎疾患のある方がいるなどの家庭・家族の状況、地域の医療体制のひっ迫の程度等を踏まえることが必要と考えられる。

エ 分散登校や臨時休業等によりやむを得ず学校に登校できない児童生徒に対しては、学校に配備したタブレット端末や、民間の学習支援サービス（スタディサプリ、ロイロノート、チームズ等）を活用し、可能な限りオンラインによる学習支援を行う。

(4) 部活動

部活動は、感染防止対策を徹底した上で再開する。なお、部活動休止期間中の運動不足を考慮し、準備運動を十分に行い、運動強度は段階的に高める。

オ 保護者から感染が不安で休ませたいと相談のあった児童生徒については、生活圏において感染経路が不明な患者が急激に増えている地域で、同居家族に高齢者や基礎疾患がある者がいるなどの事情があつて、他に手段がない場合など、合理的な理由があると校長が判断する場合には、指導要録上「出席停止・忌引等の日数」として記録し、欠席とはしないなどの柔軟な取扱いも可能である。その判断に当たっては、高齢者や基礎疾患のある方がいるなどの家庭・家族の状況、地域の医療体制のひっ迫の程度等を踏まえることが必要と考えられる。

カ 分散登校や臨時休業等によりやむを得ず学校に登校できない児童生徒に対しては、学校に配備したタブレット端末や、民間の学習支援サービス（スタディサプリ、ロイロノート、チームズ等）を活用し、可能な限りオンラインによる学習支援を行う。

(4) 部活動

部活動は、原則休止する。
ただし、出場を予定している公式大会やコンクールがあり、校長が必要と認める場合は、校内において、7日前から平日のみ4日以内、時間は90分以内の活動に限る。

なお、出場する公式大会やコンクールは、上位大会につながるものに限定するなど、慎重

| | | |
|--|--|--|
| <p>ア 対外的な練習試合、合同練習及び部合宿の実施は、実施周辺地域の感染状況に応じて、活動時間や活動場所を検討しながら、感染防止対策を講じた上で慎重に判断する。</p> <p>イ 公式戦への参加は周辺地域の感染状況に応じて、慎重に検討する。</p> <p>ウ 児童生徒が密集する活動、近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い活動、向かい合って発声する活動及び室内で近距離で行う発声や演奏を伴う活動については、地域の感染状況に応じて、慎重に再開を検討する。</p> <p>エ 活動の開始時と終了時には、児童生徒の健康状態の把握や感染防止対策指導を行った上で実施する。なお、教員が常時立ち会わないことも可とする。</p> <p>オ 運動を行っていないときは、原則マスクを着用する。ただし、マスクの着脱については、熱中症等への対策を優先し、着用しない場合は人との身体的距離を十分に確保する。</p> <p>カ 活動の際には、部活動前後での集団での飲食や、部室等の共有エリアの一斉利用を控えるなど、付随する場面での感染防止対策も徹底する。</p> | <p>ア 対外的な練習試合、合同練習の実施は、実施周辺地域の感染状況に応じて、活動時間や活動場所を検討しながら、感染防止対策を講じた上で慎重に判断する。</p> <p><u>部合宿は、自粛する。</u></p> <p>イ 公式戦への参加は周辺地域の感染状況に応じて、慎重に判断する。</p> <p>ウ 児童生徒が密集する活動、近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い活動、向かい合って発声する活動及び室内で近距離で行う発声や演奏を伴う活動の実施については、地域の感染状況に応じて、慎重に検討する。</p> <p>エ 活動の開始時と終了時には、児童生徒の健康状態の把握や感染防止対策指導を行った上で実施する。なお、教員が常時立ち会わないことも可とする。</p> <p>オ 運動を行っていないときは、原則マスクを着用する。ただし、マスクの着脱については、熱中症等への対策を優先し、着用しない場合は人との身体的距離を十分に確保する。</p> <p>カ 活動の際には、部活動前後での集団での飲食や、部室等の共有エリアの一斉利用を控えるなど、付随する場面での感染防止対策も徹底する。</p> | <p>に判断する。</p> <p>活動の際には、部活動前後での集団での飲食や、部室等の共有エリアの一斉利用を控えるなど、付随する場面での感染防止対策も徹底する。</p> |
|--|--|--|

(5) 寮や寄宿舎における感染症対策の徹底

引き続き、寮や寄宿舎の集団生活における感染防止対策は特に徹底する。

4 保護者との連携

学校内で感染拡大を防ぐためには、ウイルスを持ち込まないことが重要であることから、同居家族等も含めた健康観察、また、『『**厳重警戒**』での感染防止対策』に基づき各家庭においても感染予防に努めていただくよう保護者等に依頼する。

(5) 寮や寄宿舎における感染症対策の徹底

引き続き、寮や寄宿舎の集団生活における感染防止対策は特に徹底する。

4 保護者との連携

学校内で感染拡大を防ぐためには、ウイルスを持ち込まないことが重要であることから、同居家族等も含めた健康観察、また『愛知県まん延防止等重点措置』に基づき各家庭においても感染予防に努めていただくよう、保護者等に依頼する。

(5) 寮や寄宿舎における感染症対策の徹底

引き続き、寮や寄宿舎の集団生活における感染防止対策は特に徹底する。

4 保護者との連携

学校内で感染拡大を防ぐためには、ウイルスを持ち込まないことが重要であることから、同居家族等も含めた健康観察、また、『愛知県まん延防止等重点措置』に基づき各家庭においても感染予防に努めていただくよう保護者等に依頼する。